



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第43号

(H28/12/28)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

11月26日の県民フォーラムで発表いたしました「介護・看取り川柳」は、応募は北海道から沖縄まで1263点ありました！ありがとうございました。最優秀賞は「にぎる手に さいごのちから つかいきり」でした。受賞された方と話しをさせていただきましたが、実際に身近な方の介護、看取りを経験されてたくさんの思いのこもった作品だったようです。

優秀賞は「仕事場へ 既読が運ぶ 母の無事」「無理しない 腹も介護も 八分目」の2作品に。

みどりちゃん賞は「また母の 子になりたくて 握った手」「父の背が 小さく見えた 車いす」「子を抱っこ してたその手で 親だっこ」

「デイ通い 乙女にさせる 身だしなみ」「四季移り ベッドの位置も かえてみる」「看取りケア 人生変わる 家族の輪」

「しょうがない 惚れた男の 親だもの」「すまねえな それは言うなと父諭す」「散歩道 寄り添う母の 杖になる」「口きけぬ 母の目の言うありがとう」

の10作品でした。今回の応募作品のなかから 看取り川柳かるたを啓発グッズとして作成予定です。お楽しみに♪

第51回ワーキング会議(12/22)

滋賀県庁 5A会議室

初参加 6名を含む 33名で行いました。

〈参加職種：医師・病院関係者・訪問看護師・保健師・薬剤師・栄養士・警察官
医療メーカー・介護福祉士・ケアマネージャー・鍼灸マッサージ師・行政〉
講演を聞いて感じたこと、気になったこと、もっときいてみたいところ

- ・連携のためには情報のやり取りや仕組みが必要だと思った。
- ・入院は自宅に帰るためと最初に目的を共有することが大事。
- ・うちの病院・事業所も見えるか事業の先生に評価してほしい。
- ・ICTもまずは使わないと広まらないと思う。
- ・生活に戻るという視点を実習生の学生に説明したらわかってもらえた。説明していくことが大事
- ・病院の在宅支援室を、スタートさせ、改めて在宅の可能性を再確認しPTの力を引き出す必要を感じる。地域との流れができた。
- ・メディカルネットを利用して在宅でDrとの情報共有に効果があった。
- ・余計なお世話をするのが保健
- ・体調が相当悪くなってから訪問看護を利用する方が多く嵐のようにかかわって看取っていくのが多い。もう少し前からゆったりと寄り添えればいい。
- ・栄養の大切さにケアマネさんが気づくのは相当体調が悪くなってから。
- ・多職種連携「何をして」ではなく「私は何ができる」を伝えていくことでお互いの力を出し合う。
- ・ソーシャルワーカーのやっていることが病院内でも見えにくい。
- ・ソーシャルワーカーは病院と病院をつなぐ基盤づくりをしている。
- ・警察官とのワーキンググループ初めて。何かの時には警察消防に連絡が来るのだから今後警察の方との連携が組織通しでできないかと思う。情報の共有が必要。



次第

☆あいさつ・報告・連絡事項

☆〇 情報提供 「一樫本真幸先生が語る一滋賀県のココが面白い! ~県内をまわり感じたこと~」

滋賀県医療福祉アドバイザー 樫本 真幸先生

〇グループワーク

講演を聞いて



今後のワーキンググループ会議

29年1月26日(木) 県庁

2月21日(火) G-net しが

3月21日(火) 県庁



新年早々、ゲス不倫で始まって、ピコ太郎逃げ恥、スマップ解散で終わりそうな2016年。皆様はどんな1年になりましたか？

途中、リオオリンピックの金メダルラッシュと並んで、この創造会議よりおめでとう♡ニュースもありました。

この創造会議での出会いを皆様の普段の業務に活かしていただけるそんなつながりが来年もできればと思っています。

2017年もどうぞよろしくお願いいたします。

医療福祉・在宅看取りの
地域創造会議 事務局
貝沼・橋本

